

2012.10.23

「民主党内閣、責任を取らず逃げるだけなら犯罪者と同じだ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は10月23日、火曜日です。幹事長会談において、次の党首会談では解散時期について具体的な提案を申し上げる、という話を受けて、党首会談が先週行われました。しかし、結局そのような話は出てきませんでした。これは一体どういうことなのでしょう。輿石幹事長が必死になって解散を阻止しようとしているのも事実ですが、それよりも野田政権が解散時期について具体的な提案が出来ないほどに、レームダック状態になっているという事実が大きいのです。

閣内では前原大臣が解散時期は年内、という踏み込んだ発言までしています。しかし、安住幹事長代行をはじめ他の民主党幹部の方々がそんなことはない、と火消しにやつきになっています。このように、民主党はもうバラバラなのです。最後は野田総理がまとめるべきなのですが、レームダック状態ですからまとめることもできない、これが今の民主党の姿です。

今日の新聞では田中慶秋法務大臣が辞任の方向で動いている、との報道がありました。この方は一体何をしにきたのでしょうか。論功行賞のためか、党内をバラバラにしないためか、いずれにしろ先の内閣改造で法務大臣に任命された。ですが、この方が暴力団と関係があるという情報は、当然任命された時点で公安当局から知らされて分かっていた話のはずです。身体検査をすればすぐ

にわかることだからこそ、マスコミは任命した瞬間から田中大臣を叩いていたのです。しかし、野田総理は党内事情を優先させ、任命に至ったのです。

現在、国会は閉会中ですが、参議院の決算委員会でこの件について田中大臣を問いただそうとしても本人は出席されませんでした。田中大臣は出席して答弁するつもりだったそうですが、民主党の参議院国対が出席を止めさせたそうです。与党の参議院国対というのは、委員会に閣僚を出席させて答弁させるのが仕事のはずです。ところがこれと真逆のことをやっている、これはまったくの茶番です。

もはや民主党は政権担当能力がないことが明らかです。このような事件が続々出てきますから支持率は下がります。解散したくても当然勝ち目はない、ということで政権にしがみつきますが、その間にもどんどん支持率は下がると言うジレンマに陥っています。民主党は国民の生命、財産を守るという事には一切関心がなく、政権にしがみつくことにのみ心血を注いでいるのです。「国民の生活が第一」が先の衆議院選挙からの彼らのスローガンでしたが、これも全くの大嘘であることが明らかになりました。

彼らの残された仕事は解散をして国民に信を問う以外にありません。しかし、彼らに信を問うということはできないのです。彼らが武士ならば、切腹をして、大嘘をついた責任を取らなければなりません。そして、この切腹が解散総選挙に当たるのです。しかし、切腹するのは怖いから逃げ回っているのです。もは

や彼らの態度は武士でも為政者でもなく、ただのペテン師そのものです。このようなペテン師に対しては、この国の法律では内閣が解散すること以外、罰する手段がないのです。公正な第三者が裁いてくれるわけでもなく、彼らが切腹することを待つ以外にないのです。せめて、死に際には善人としてお亡くなりになって下さい、という声を国民が上げなくてははいけません。

我々参議院自民党は問責決議をしています、与党は 29 日に開会だと言っています。彼らは審議しなくてはならない重要課題が多くあると言いますが、その前に解散を明らかにしなくてはなりません。しかし、民主党はバラバラ、野田総理はレームダックという状態ですからこのような重要な懸案を決めることができるはずありません。国民には、民主党議員のような方々を当選させ、政権を担わせた結果、国政がどのような状況になっているか良く見て頂きたい。そして、このような議員を二度と当選させないようにしていただきたい。このことはしっかり認識して頂きたいと思います。このことをお伝えいたしまして、本日のビデオレターを終わらせていただきたいと思います。今日も御覧になって頂きありがとうございました。

本日も御覧頂きありがとうございました。